

大学における特別な教育的ニーズをもつ人々への支援

田中 良三

たなか りょうぞう
愛知県立大学
本誌編集委員

わが国の大学は、いま、かつてない大きな変革を迫られている。国立大学は国立大学法人となり、公立大学も公立大学法人化しつつある。大学を市場化し、競争と効率を最優先する経営が重視される。また、今日の少子化・高齢化現象や生涯学習社会の到来は、大学がこれまで門戸を閉ざしてきた多様な人たちの受け入れを必然化していく。このような中で、障害をもつ人々に対する大学としての新たな対応が問われていると見ることができる。

大学では、かなり以前から、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由の学生を受け入れ、ケアを行ってきた。そして近年、LD（学習障害）やアスペルガー症候群など「軽度発達障害」をもつ学生に対する教育的ケアの問題が論議されるようになってきている。また、大学の地域貢献が重視されるなかで、知的障害者等を対象とする大学公開講座（オープンカレッジ）の取り組みも広がっている。

この特集では、今日の大学における障害による特別な教育的ニーズをもつ人々への支援について、歴史と実態・実践・取り組みなどについて全体的状況を把握し、今後の課題を明らかにすることを試みた。

大泉論文は、わが国の障害学生の今日的課題を、戦後の政策と実践・運動、大学入試の方法、キャンパス条件と修学の配慮・支援、進路・就職問題などとの関連でその全体像を歴史的に明らかにしようと試みている。

葛西論文では、精神・発達障害の学生との関わりを通して、大学の学生相談室をはじめとす

る従来の大学の教育システムや医療・相談システムの枠組みからの脱構築が求められていることについての具体的な問題提起がされている。

藤井論文では、長年にわたる障害学生支援の歴史をもつ日本福祉大学における障害学生支援センターの活動状況、障害学生当事者および支援学生団体の活動状況の紹介を通して、大学全入時代の新たな障害学生支援の在り方について問題提起がされている。

田中論文は、今日わが国の大学における発達障害をもつ人々を対象とする大学公開講座（オープンカレッジなどと称する）の取り組み実態についての把握を試み、今後、大学における発達障害をもつ人々の生涯学習支援の課題を提起している。

また、平井論文は知的障害者を対象とする大学公開講座としては最も長い歴史をもつ東京学芸大学における、國本論文は鳥取県内の「オープンカレッジ in 鳥取」と「鳥取短期大学公開講座」についての、向井論文は種智院大学におけるダウン症の学生についての実践報告である。

他にも、岩田論文は発達障害学生支援の立場から学生相談学会の動向について、白澤論文はアメリカを中心に聴覚障害学生の高等教育の動向について、それぞれ情報を提供していただいた。また、高山さんと岩元さんからは、当事者の立場からそれぞれ大学教育に対する提言をいただいた。

本特集は障害のある人々の高等教育や生涯学習の拡大に貢献するものと確信している。